



Title	WHOグローバルフォーラム「都市化と健康」に参加して
Author(s)	関, 淳一
Citation	目で見えるWHO. 2011, 45, p. 4-5
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86787
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



WHOグローバルフォーラム 「都市化と健康」に参加して

社団法人日本WHO協会理事長 関 淳 一

「都市化と健康」をテーマにしたWHOのグローバルフォーラムが、マーガレット・チャン事務局長も出席され2010年11月15日から17日にかけて、神戸市に於いて開催されました。

7月の下旬に、WHOから正式の招待状をいただき、私も出席することになりました。

このフォーラムは、2010年の世界保健デーのテーマであり、2010年に年間を通してWHOが推進した「都市化と健康」についての世界規模でのキャンペーンやイベントなどの集大成として位置づけられており、この課題について、WHOの中でも中心的な立場で研究や活動を永年進めてこられたWHO神戸センターの所在地である神戸市での開催となったものです。

フォーラムには、80以上の国から、市あるいは州などのトップやリーダー格の人、都市問題についての研究者など300人以上の人々が参加していました。

フォーラムは、各々約1時間、6回の全体会とその間の時間に、直前の全体会のテーマに関連した各々4ないし2の分科会（合計10分科会）と特別セッション（合計4回）といった型で二日と半日に亘り開催されました。

いずれの会も、問題提起を行う一部のスピーカーは決まっていますが、あとはスピーカーと会場、また会場内の発言者同志の自由発言で、常に予定の時間を超える極めて活発な議論が展開されました。

会場も、指定されているスピーカーの為にステージはありますが、あとは数名が着席できる円型のテーブルが部屋一杯に配置されており、参加者はどこにでも自由に着席できるようになっておりました。したがって、同一のテーブルに初対面の色々な国の人が席に着いていることになります。一つの全体会が終わると次は分科会ですので、参加者は各々自分の関心のあるテーマの会場へ移り、又次の全体会の時には、前の全体会の時とは別のテーブルの席に着くことになります。したがって、正味二日半の間に、その都度色々な国の、様々な

都市から来られた人々と円型テーブルで直接言葉を交わすことになります。

私も、色々な型の国際会議などに参加したことはありますが、会場がこの様な形のしつらえのものは初めてで、ある意味で成程と納得に似た感じを持ちました。



このフォーラムの公式レポートは近々発表されますが、6回の全体会では、

1. 都市における健康問題（都市における健康格差に焦点を当てたグローバルフォーラム全体に対する問題提起）
2. 都市における健康管理（道路や交通、保健医療サービス、安全な水・食品・住宅・下水や大気汚染などを含む都市計画の重要性）
3. 都市における健康の問題についてのリーダーシップ（都市住民の健康増進に果たすトップのリーダーシップの重要性）
4. 都市における健康問題、その解決策と今後の取り組み（これまでの3回の全体会と10の分科会でなされた議論と得られた情報の総括）
5. 都市における健康問題に対する政治的取り組み（健康は全ての人にとって、基本的な必須条件であることを前提とした政治の役割）

が議論されました。10の分科会では、極めて多くの、具体的課題について議論されました。その一部を挙げると、各種感染症の問題、非感染性疾

患として糖尿病や高血圧など所謂生活習慣病の問題、災害時のリスク、都市スラムの問題、都市環境・気候変動の問題、廃棄物処理・都市の美化と緑化の問題など、都市化と言う意味で、様々な段階にある世界の各都市にとっての重要な課題が議論されました。

そして最後の全体会6では、マーガレット・チャン事務局長により、これまでの全体会、分科会での議論が総括され、「神戸行動宣言」として発表されました。

この「神戸行動宣言」は、我々がその重要性を認識すべき三つの基本原則とそれを実現する為の具体的な活動指針から成っております。

基本原則としては、

1. より健康な都市を築く為に、各々の都市の健康における不公平の存在を明らかにし、その改善に取り組むこと。
2. 地方自治体は、あらゆる都市政策に健康の視点をとり入れ、部門を超えた活動を通してリーダーシップを発揮すること。
3. 都市政策とそれを計画する過程に於いて、効果的に住民の力を用いることの三点に集約されました。

そして、具体的な指針として、このフォーラムの全ての参加者が責任をもって行う事柄と地方自治体、市民社会、国家政府そしてWHO、UN-HABITAT（国連人間居住計画）やその他の国際的なネットワークに対する要求が各々項目を挙げて示され、前述の三つの基本原則と共に、全体として承認されました。



その後、マーガレット・チャン事務局長はこの「神戸行動宣言」は「都市化と健康」をテーマにした、

一年に亘る世界的キャンペーンの集大成であり、今後も活動を継続する為の道筋を明確に示した、銘記すべきものであることを述べて三日間に亘るフォーラムの閉会の言葉とされました。

更に、その後場所を隣りの部屋に移して、WHOとUN-HABITATの永年に亘る共同研究により作成された、「The global report Hidden Cities: unmasking and overcoming health inequities in urban settings（隠された都市：健康格差是正を目ざして）」の完成発表とプレゼンテーションの会がマーガレット・チャン事務局長とUN-HABITATの代表者のもとで開催され、参加者全員にその原本とサマリー版が各一冊ずつ配られました。このレポートは、都市部と地方の健康格差の比較ではなく、都市特有の問題としての都市内の健康格差に焦点を当てた研究成果であり、都市化が急激に進行する現在、最も求められている資料と言えると思います。

この様にして、WHOの「都市化と健康」をテーマにしたグローバルフォーラムは、振り返ってみると、あっという間に終わった様にも感じますし、又、殆んどの参加者は三日間、開催されたホテルから一歩も外へ出ず、朝から連日夜9時半頃迄、寝る場所は別としても、三食の食事会場ないしはホテルのレストランの何処かでという生活で、まるで合宿を思い出す様な感じでした。

しかし、実質上の主催者であるWHO神戸センターのKumaresan所長をはじめ、スタッフの方々の周到な準備と期間中の細やかな行届いた気配りで、会場は常に活気に充ちていると同時に和やかな雰囲気終始していました。私自信にとっても、都市化の真の意味について学ぶことも多く、又多くの人々との出会いがあり、充実した三日間でした。今回参加させていただいたことに、特にKumaresan所長には、改めて心から感謝の意を表したいと思います。

最後に、この報告書は、例えばプログラムや「神戸行動宣言」の英語の日本語化等も含めて、あく迄も私個人の理解の範囲でのものであり、フォーラムの正式レポートはこの原稿のメ切の後に出版されることになっておりますので、その点お断りしておきます。